

刊夕日五十月一



定価一紙 一ヶ月金五拾圓 郵費五圓
電話五拾五 二五拾 一五拾 五拾圓
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常磐日新新聞社
〒980 仙台市青葉区本町一丁目
電話 五拾五 二五拾 一五拾 五拾圓

今日此頃感ずる

國田 芳夫

そもそも生立はなどと切出す程私は老人でもなければ、又筋目正しい家柄に生れたのでもない。が、話の順序だから少々我慢して聞いて——ではない、読んで呉れ給へ。私は明治二十一年東北は仙臺と一の關との恰度真中の古川と云ふ當時人口六、七千の町で棉、絲類、木綿等を商ふ小商人の家に生れた。子供心にも甚だ貧弱なる店構であつた。馬鹿々々しく興行の長い家屋敷であつたが、間口は四間位のものであらう。道路に面した十疊位の部屋が即ち「店」であつた。其二階が棉打場である。今から思へば支那棉であつたらう。時々一俵か二俵位店先に着いたのを覚えて居る。繭形の可成り嵩張つた荷物でズックまがひの袋に入れられ、所々手鍵の裂れ目があつた。勿論線棉には違ないのだが綿の實がある、實があると云つて、我等子供が澤山探し廻るのを一の遊びとして居つたから、繰り方も随分粗末のものであつたらう。之を二階で平常は一人、忙しいときは二人の綿打がヒンビンして居つた。今日で

も古綿の返しの店などにあるだらうと思ふが、弓形の器具の並を槌で軽く叩いて綿を繰りほぐすのである。落花芬々として綿の繊維が飛ぶ。それを水氣を含ませた琉球表の上にうけて、竹の昔で器用に捌き、着物用と蒲團用とに、適當な形に拵へてゆく。綿打場は實に織維やら、塵やら、濛々として飛び散る非衛生極まる所である。綿打職人はよく古ぼけた手拭で口を掩ひ、其

がよく色美しく軟かくなる糖菜小豆を入れて茹るのも軟かくする方法の一つ

ノート

蝸は太根と共に茹ると風味

の手に拭の面に恰度雪のやうに綿が積つてゐるのを子供心にも面白く感じた。部屋に天井や、壁にも、綿が氷柱のやうに垂れ下つて居る。そこに、私は近所の遊び仲間を拉して来て、打綿に興じたり、頭一杯に綿を被つて、そこら中かけ廻つたものだ。

心にも雨が

木津 茂太郎

雨がふる
じめじめとふる
肴屋が来て買はれてゐる
縁に置いた肴の箱
やみ猫がふらふら来る
箱についてゐるあぶらをなめる
そしてニーンと鳴く
雨がふる庭の水たまり
私はひとり本を讀んでゐる
本を讀んでゐると
おや私の心の中にも
さびしい雨がよつてる



難波

内科一般

醫學博士 **難波 睦**

平町大町新川端
電話五〇二

院

大嶺商店

福島縣一手特約店

專賣特許 泉屋 大嶺商店
實用新案 假事務所 平鍛冶町二九
電話五〇三番

▲無酸 ▲不硫凍
▲泡沫 ▲強力

特許貳億萬圓消火器

吸入用酸素

純度 99%

モノサシ
マノサシ
ハカリ

体温計
寒暖計

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

外科

門專光 X
科線

上田外科醫院

平町南町
電話一二九番

理想の治癒薬出現す

一般賣藥、熱療器類に不満を感じた患後の良藥として本藥を紹介いたします。

●本藥は有り觸れた白檀油系統の平凡藥でなく、独自の注射原藥を主劑とし外に洋藥及漢藥數種の特効成分と利尿藥が配合され特に胃腸腎臟障害等の副作用を絶無ならしめた安全藥で又錠劑で有ります。

ザロス

強力殺菌内服注射原藥配合

消渴 淋病

特約店 **阿部藥舖**

平町田町(松月堂向イ)

●發賣元不二藥品商會

試用分 ¥2.00
輕症用 ¥3.00
重症用 ¥5.00

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

松前 家傳 **靈効散** (無効返)

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。今迄のものには眞正のもので奏効確なもので、服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、輕病、心臟、痔疾の方は是非御試して下さい。クセにならず根治致します。兒小用の靈効散も出來ました。

定價
試用分 八日分 五十錢
重症用 四十五日 貳圓

惱症用 廿日分 壹圓

販賣部 地方代理店

阿康藥舖

平町古鍛冶町縣社ノ下
電話四四番

月曜 是非

色川火力製材所の調査

色川火力製材工場は遂に町會の問題となつた、色川氏が從來でさへも附近に物議の種をまいた電力製材所を、今度は更らに火力にしようとするのであるから、附近の住民が不安に駆られるも無理はない。

電力を火力に改める事に依つて、莫大な利益を生みその營業が益々隆昌に向ふ事は色川氏の爲め誠に喜ぶべきである、然れ共、獨り色川氏個人の利害關係に依つて附近に住む幾十の人々の利害を度外視さるべきものに非ざると同時に、住民が色川氏の前に犠牲的存在である事を忍ばねばならぬ道理はない、茲に於てか區民が、その窮状を全町民に訴へ、町會の方を籍らんと企てたる心情は、誠に同情に價すべきであり、若し町會が是れを一方部の問題であるとして、取り上げなかつたならば、附近住民は無告の民となつて、其の恨みの晴る日は永遠に見舞はぬであらう。

町會席上、原告側即ち住民側の主張は建議者の説明に依つて徹底したが、被告側即ち色川氏側の申立ては是れを聞く事が出来ない、此の儘の姿に於いて直ちに建議案の採否を決するは一方的の才判となり、色川氏に恰も欠席才判を與へたりの誹りを受くるであらう故に事態を重大視して調査委員を擧げ、その萬全を期

さんとせるは、用意周到と譽むべきである。此の上は、色川氏及び附近住民活殺の鍵は、調査委員の手中にあると云つても過言でない、それ丈に責任は重大だ。委員はおよそ問題に關する一切の材料を、公平な見地より蒐集して、是非何れに決するとも町民の首肯し得べき調査の跡を示すべきである。

漁村の經濟

根本調査を行ふ

郡内に委員囑託

本縣では今回漁村經濟の根本調査を行ふ爲め本郡下に左記六名の調査委員を囑託し漁獲高を始め收支關係の一切及び經營の參考資料等を調査する事になつた

平第二校の

書初受賞者

既報する十一月より全校児童の書初展覽會を開催した平第二小學校では本日賞状授與式を行つたが各學年の受賞児童左の如くである

- 石井尚子(二年)田隆卷子 廣邊義子 馬上アキ 清野光 高木良子 小菅友枝 淺野瑛子 渡邊照飯沼俊子 遠藤ミツ 塚はつ子 菅野榮子 村上マサ 小齊峰子 岡田明喜 中野静 菅野敬子 堀ヒサエ 松本ミヨ(三年)千葉恰子 大和田キヨ 黒木智子 蛭田悦子 渡邊なか 草野敏 柴田離苦子 早川和枝 横山言子 高崎キヨ 鈴木蘭子 鈴木由子 大嶺悦子 佐川行 千澤英子 遠藤

町村豫算編成に

町村長が縣廳と打合

石城郡下町村長は本年度豫算の編成に就いて来る廿日午前十時より平町役場會議室に參集し縣吏員を招いて打合せを行ふと

産業組合指導員

地方駐在を廢止

樋口氏近く縣へ引揚げ

平團體事務所駐在樋口産業組合指導員は今回縣に於いて地方駐在指導員を廢止する事となつたので近く縣廳に引揚げるが從來郡下各産

山間の農事經營

米山技手が巡回して

石城駐在農業技術員米山技手は近く左記日割を以つて山間農村を巡回農事經營に

- 睦子 高崎京子 桑原貞子 友部宮子 金成芳枝 藤川比奈 白土アイ 佐藤シチ 橋本美智(四年) 梅津吉子 志賀恭子 大樂恒一 長崎トキ 關内敏子 西尾啓子 三浦榮子 馬目静 野口チヨ 松本ミサ 木田秀子 菅本幹子 關内満壽子 坂本勝子 原ツネ 酒井良子 田仲マサヨ 鈴木和子 阿部英子 麻原時子 鯨岡久 中村照 村山佳子 櫻庭ミヨ 高木ひで 吉田貞子(五年)石川清子

橋梁調査

縣技手來郡

縣土木課の木村、鷲崎兩技手は来る十八日來平町、小名濱、勿來等で橋梁調査を行ふ

好問果樹總會

好問果樹總會では来る十九日午前十時より村役場に於いて總會を開き本年度豫算並に事業計劃等を協議する

平町 人事

回出生

△鎌田町二九 鈴木傳吾氏 長男誠

回婚

△東京市荒川區三河島一ノ四八六松本市太郎氏(三〇)三丁目二一六谷キケ(二九)

回死

△古鍛冶町三八 當時東京市大森區新井宿五ノ五六一 椎各金治(一八)

- エ 小泉秋子 正木千鶴子 江尻ミヤ 石川秀子 瑞一子 栗田ケイ子 菅野文子 中野弘子(高一) 鈴木ひて 曳地ミヤ 織田マサヨ 藤田葉末 目黒ミヨ 小野文子 石井フミ 磯上喜美子 廣澤好枝 武田ユキ 根本廣子 小谷テル子 今田操藤田トシ 中條ミチ(高二)山崎ヒロ 堀江光子 雜波ツネ 渡邊益子 志賀麻子 増尾ノブ江橋トヨ 丹野芳子 木田ミツル 佐藤光子 鈴木芳子 伊達清 菊地雪

門專 科病柳花外 院醫科外村木

際橋目丁五町平 りあ便の院入炊自

〇九三話電

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

實況調査の結果を待つ

色川製材所問題

明日委員会を開く

十三日の平町會に於ける馬目武之助、馬目雅治兩氏より提出された色川火力製材所許可反對の建議案は、根本品藏、鈴木光吉、馬目雅治、猪狩觀徳、吉田五平

の五委員に依る實況調査の結果を待つて其の採否を決する事となつたが調査會は明日開かれ十七日の本會席上に報告される筈

少年消防

郡内に六組

大浦村消防組では此程愛川組頭主唱の下に少年消防隊を組織し近くこれが發會式を舉行するが郡内では平、錦、鹿島、平窪、神谷と併せ都合一町五ヶ村に設置されたわけである

違反失格の

箕輪補欠選挙

昨日當選者一名決定

箕輪村では選挙違反で村議二名が失格欠員中の處昨十日補欠選挙を執行、選挙有資格者二百六十一名のうち投票百九十一、無効二、棄権六十九、失格一で開票の結果左記二氏が當選した

六六票 遠藤齊 六五票 小沼末造 次点五七票 高萩國太

町村吏員

互助會結成

全郡下各町村吏員の共濟新機關として町村吏員互助會設立の爲め來郡中であつた

銅屋根破り

徘徊中捕る

四倉町字新町居住日雇業宮城縣生れ佐藤豊(日)は去月

中同町妙見社の屋根を引さし赤銅時價十圓餘を窃取して昨十四日平町で賣却すべく市内を徘徊中を平署員に檢舉された

警中成績懇談

警中では本日第二學期に於て成績の思はしくなかつた各學生徒父兄の來校を求め各係教諭が種々懇談した

凍る夜に學ぶ

青訓の夜學開始

平青年訓練所では今晚より第一小學校に於て夜學を開始するが授業は毎夜七時から九時半迄で各係教諭左の如くである

- 修身 篠山校長 公民坂内
- 數學 大和田 地理 鈴木
- 國語 歴史 井上 商業 丹野

難所・御齊所峠

來る二十日頃までに

道路の擴張改修竣工

入遠野村では昨年來より工費五千圓で同村御齊所峠附近道路を匡救工事として着工中であつたが本月廿日頃竣工すると

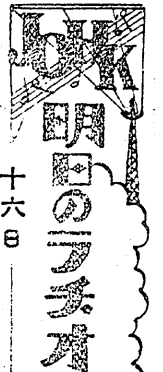
校庭に鐘樓立つ

勿來町が時の觀念普及に

勿來町では時の觀念を普及する一方法として昨年中より小學校庭に鐘樓を建築中であつたが此程竣工したので昨十四日午前十時盛大な落成式を行つた

盛んな葬儀

藤田前校長の病氣の爲め逝去された藤田



今夜も明日も北西の風晴曇半す

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 後六、二五 英語講座(一)
- 若杉三郎
- 後七、三〇 講演
- 後八、〇〇 漫談「ものは相談」伴奏指揮大辻司
- 郎福田宗吉
- 後八、三五 琵琶掛合新曲

明日の部

- 「夜討會我伊藤農水
- 後九、〇〇 新内雙紋刀録
- 日富士松春太夫
- 後九、三〇 時報 ニュー
- 氣象通報 番組豫告
- 前七、〇〇 基礎獨語講座
- (四) 橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「ス

教練用銃器増加

警中平商に陸軍省より交付

警中及び平商では此程陸軍省より教練用銃、各十挺宛交付されたが是れに依て警中は合計六百挺、平商は七十五挺となり兩校共益々教練用資材の充實を示してゐる

小山田氏

けふ表彰

人物逮捕に協力

湯本町入山炭鑛の人事係長小山田滋氏は昨年平署で苦心逮捕せる炭鑛赤化事件の主要人物たる星野篤の檢舉に盡力した功に依り過般渡警察部長より表彰され本日平署に於いて是が傳達式を

- △行義見習 廿一迄 高卒
- △子守 十八才 尋卒三月三
- △四圓
- △三助 五十位迄 月二圓
- △葉子職 廿四迄 尋卒八月九圓
- △出前持 二十前後 尋卒月四圓外仕着
- △新開配達 十七才 高卒

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一〇七

美味で！ 評判の……

イワキ サロン 電 352

- お話「飯入」南木芳太郎
- 後六、二五 ことばの講座
- 「ことばに遣ふ」音聲第一
- 講神保格
- 後七、三〇 講演「自化自育の教養」岐阜高等農林學校長 草場榮喜
- 後八、〇〇 常磐津 釣女
- 常磐津政太夫其他
- 後八、三〇 歌謡曲 山里せつ子
- 後八、五〇 ラジオドラマ
- カゲアルケード 汐見洋
- 其他

- 給料面談
- △土木夫 四十七才 尋三
- 修 給料面談
- △炭鑛事務員 二十一才
- 高卒 給料面談
- △雜役 三十三才 高卒
- 給料面談

銘劍秘又録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第三百一十一回 徳川家に崇る村正

斬取りは武士の常

その後二日ばかり経つて道具屋七兵衛が来たから、溝口五左衛門四十兩の金子を渡して、全く村正を己の所有と致しました、尙僅かではあるが借金のおつたのを全部支拂つて、まだ後に幾らか残つた、そこで五左衛門を村正を刀屋へやつて柄糸などを新しく致し、自慢で夫を差して歩く、又先日遊びが大層面白かつたので、其の後「ヨイ」萬字樓へ通つて行く、おさだといふ立派な奥さんも大層心配をして意見をしますが、一向に聞き入れない、其の内に、廊の金には盡きるがならひ、忽ち手許が逼迫をしてつた

「ハテ困つたな、何處かで金の工面はつかないかな、此の頃拙者の放蕩が大分評判になつて、親類などでも悪く云つてゐるさうだ、そんな處へ金を借りに行つても無駄、玉落の方も先日借たばかりだからさういふは借られん何か宜い工夫は」と考へてゐる内に、ふと胸に浮んだのは、日外向島で酒興に乗じて抜刀して、枝を切つた時に、町人が追

刺と驚いて金を投つけて逃げた、夫で思はぬ儲け物を見たが、モウ一度あの眞似をやつて見やうか、と宜くない考へを起して夜の四ツ頃鳥越の屋敷を出た、態と黒の衣類に、黒い頭巾で覆面をして、丁度大音寺の脇

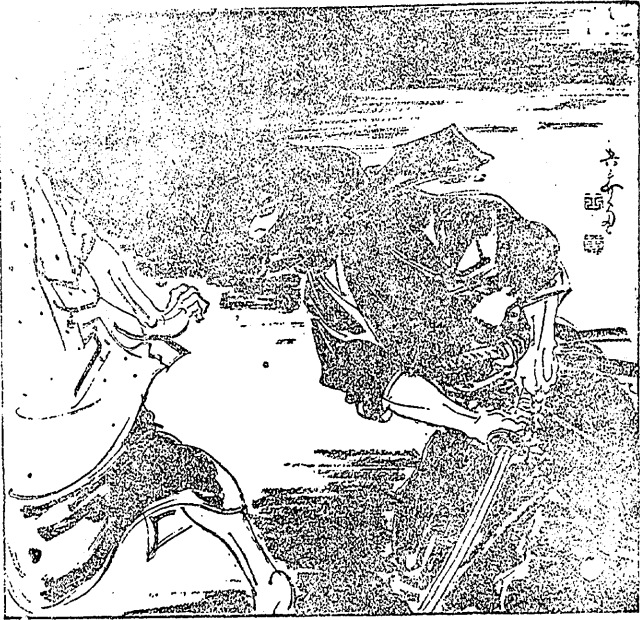
と見えて、絹物を着てゐる五「宜し、此の老徳を脅かして呉れやう」ズカ〜と前へ進んで五「アイヤ一寸お待ち下さい」老「ハイ〜何か御用で」五「誠に申兼ねるが、少しく金子が入用だ、折入つてお願ひ致す、御用立を願ひたい」

五左衛門の様子を、ジロ〜見てゐた、彼の老人カラ〜と笑つて老「之はお戯れ、御立派なお武家様にも似合ひません左様の御戲言はお止し遊ばせ」

手前少々取急ぎます御免」其の儘老人はドン〜行つて終ふ、五左衛門一寸勝手が違つた、暫らく老人の後姿を見送つてゐたが、思はず刀の柄へ手をかけて鯉口をブツル切ると五「ウムさうだ、小生氣の老ひばれ幸ひ刀の切味を試して呉れん」

と急に殺意を生じたのも妖刀の爲す處かバタ〜バタツ、追掛けて参り、ヒョイと老人が振返る途端に「エイツ」

抜き打ちに右の肩口から後袈裟に左の乳へ掛けてバツサリ「ウーム」と云つて仰向けに倒れる處を、バラリ首を打落して、ホット一息吐き「ア、能く切れる」



まで掛つて来ると、短い刀を腰に差し、小提灯をさげてブラ〜行くのは彼は六十前後の老人、町人ではないが、大小を差してをらん處を見ると、浪人者でもあるか、然し扮装の様子を見るのに、裕福に暮してゐる

五「イヤ冗談ではない、實際入用だ其方が持合せの金子を残らず出せばよし、さもないに於ては一刀の下に斬て捨てるぞ」

老「之は甚だ御無体、拙者金子などは持つて居らん、大方御酒興でござらうが、よし何とかして目を眩まし

てやらう」

と其處は悪事に長けた奴、龍泉寺村から入谷へ出て夫より淺草の廣小路へ参り其處で駕籠を雇つて日本橋まで来て、其處で一旦駕籠を下り、中橋の通りまで歩いて、其處で駕籠を雇つて品川へ参り、モウ大引け過ぎではあるが、一軒の遊女屋を起して、其處へ泊り込んだ、女の居ない間に、手早く胴巻を解いて、中の金を検めると、小判小粒合せて三十七兩、外に證文などが入つてゐる、五左衛門ニヤリとわらつて「どうして俺は斯う運が宜いのだらう。」

「ア、能く切れる」手早く血を拭つて鞘に納め老人の懐中を探ると、胴巻に可成りの大金が入つてゐるやうだ、四邊に心を配りながら胴巻の紐を解いてズル〜と引出し、確かり己の肌へ付けて了つて、ヒョイと氣がつくと、老人が取落した拍子に、蠟燭が紙に移つてペラ〜燃てゐるそこがまた五左衛門は悪事に馴れてゐないから、己れの目的の方を急いでさういふ事に氣がつかなくかつた吃驚して火を雪駄で踏消しながら、ヒョイと向ふを見る

影「之アいかん、今夜は吉原へ参る心算であつたが、後でも尾けられると一大事、よし何とかして目を眩まし

お醤油は ヤマフル

醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋
合名會社
福島縣平町電話營業部三醸造工場三七
明治生命塔城代理店 山崎 與三郎

長唄 花柳流 舞踊

御稽古 齋藤 古庵
おすゝめ 致しませ

平町七三 花柳舞踊流 研究所
花柳徳三郎 杵屋十茂代

會葬御禮

飯島 榮子

産人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 玄番彌一

平町新川町十九
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

吉田眼科病院

平紺屋町電話六八番
院長 吉田 安雄
醫學士 吉田 久雄

眼科専門